

北竜町総合戦略2025

1 はじめに 北竜町の魅力

北竜町は、北海道のやや中央の北西部、札幌より北へ100km（車で2時間）、旭川より西へ60km（車で1時間）に位置しています。



空から見た北竜町

まちの魅力はたくさんありますが、代表的なものが3つあります。

1つ目は、「ひまわり」です。夏になると、一面ひまわりが咲き誇る「ひまわりの里」の面積は23ヘクタールで、東京ドーム5個分の広さがあります。本数は約200万本で、世界のひまわりが約18種類植えられています。毎年7月中旬から8月下旬に開催される「ひまわりまつり」には、道内だけでなく、首都圏などの都市部や日本各地から20万人以上の観光客が訪れ、また最近ではインバウンドも多く、夏の北海道の代表的な観光スポットとなっています。



ひまわりの里

2つ目は、「農業」です。北竜町の環境に配慮した米作りの歴史は長く、農業規制が緩やかだった時代の昭和63年から、全町を挙げて、有機農業、減農薬、無防除の栽培に積極的に取り組んできました。特に、農産物の生産履歴に関する情報を、消費者へ正確に伝えることを第3者機関が認定するJAS規格制度を取得し、全国の消費者に北竜町の安全・安心な米を、誇りを持って届けています。こういった取組や姿勢が評価され、第46回日本農業賞（集団組織の部）の大賞を、本町のブランド米「ひまわりライス」を中心とした取組が評価され受賞しています。

また、米以外でも、黒千石大豆やひまわりメロン、ひまわりすいかなどの特産品が有名です。



ひまわりライス

そして、3つ目は、「お互いさま」の地域コミュニティが機能しており、人を大切にし、人と人とのつながりがある、いわば町全体が家族のような温かさがあることです。

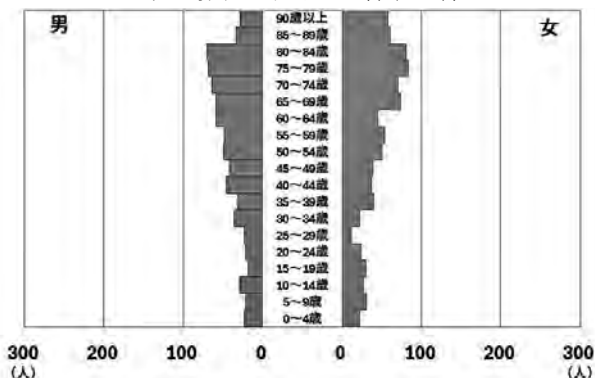
2 北竜町の人口の推移

北竜町の人口は、昭和35年の6,463人をピークに減少傾向に転じており、令和6年の人口は1,637人まで減少しています。その内訳として、生産年齢人口（15歳～64歳）は、ピーク時に比べて約80%減少しており、

一方で高齢化率は令和6年度45.8%となり、上昇傾向にあります。

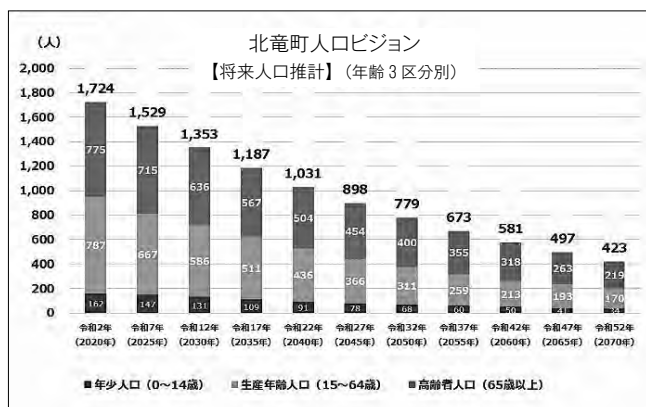
その結果、現在の北竜町の人口ピラミッドは、「ツボ型」となっており、地域のコミュニティの維持や地域活動、農業などの地域産業の担い手が確保できない状態となっています。

北竜町人口ピラミッド（令和6年）



また、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）の推計を基に北竜町の将来人口の推計を行うと、高齢者人口、生産年齢人口、年少人口（15歳未満）ともに、今後5年ごとに10%程度の減少が続いていくと推測され、このままでは、農家数や建設業、小売・飲食等の令和52年度の就業者数は、令和2年度比でそれぞれ1/5程度になると考えられます。

こういった状況を踏まえ、「北竜町総合戦略2025」を策定することとなりました。



3 「北竜町総合戦略2025」について

【現状の課題を踏まえ】

現状の課題は大きく分けて、4つです。

1つ目は、生産年齢人口の減少や若い世代の転出(大学進学や町外への就職など)により、農家など地域の

担い手が不足しているという「地域の担い手不足」の課題があります。

2つ目は、町の主力産業の農業は、携わる人や、続けていく人の不足の課題に加え、付加価値の向上や稼げる品目の拡大など、今後の農業経営についての課題があり、生産額の大きい建設業は、深刻な人手不足と現在担っている公共的な役割や依存度を今後どうしていくかなど、「産業構造の偏り」を改善していかなければならないという課題があります。

3つ目は、「観光資源等に制約がある」という課題で、具体的には、「ひまわりまつり」の集客力は高いものの、その他の観光資源（独自のお土産、メニューなど）や、コンテンツ（アクティビティや体験など）が十分でなく、一年を通じての外部との接点が不足していることに加え、現行の「ひまわりまつり」や「観光センター」の若い世代からの評価や魅力が低下しつつあることで

4つ目は、他地域との横のつながりや、課題の共有が十分でないこと、都市部や民間企業などと、win-winとなるような取組や持続可能なしくみがないなど、「地域間や民間との連携が不足」しているという課題があります。

これらの課題を改善したり克服していくために、総合戦略の基本方針を定めました。

【掲げた基本方針（目指す姿）】

基本方針は、『楽しい「ひまわり暮らし」を実現し、次世代に引き継がれる未来志向のまちづくり』です。

人口規模が小さくても、しごとや活躍できる場所と機会があり、地域経済が元気に循環し、“お互いさま”の地域コミュニティが機能している「人を大事にし、安心して楽しく働き、楽しく暮らせる」まちを未来につなげていく。特に先端的な学び、特色ある人づくりのしくみがあることで、子どもから高齢者まで、町民一人ひとりの可能性を最大限引き出すとともに、その選択肢を拡大していく。都市部の民間企業人材や、専門的なスキルや能力を持つ人材、大学生など若い人材など、多様な関係人口を増やすこと、相互につながりながら高め合うことで新しい流れをつくり出し、ひまわりのように明るさと希望と幸せが実感できるまちを目指す。その際には、町民や事業者、行政など関わる

すべての人が、自分の立場や役割にとらわれず、役場や各種団体内の縦割りのしくみを超え、フラットな立場で、横断的かつ柔軟に取り組んでいく、という「コンセプト」を掲げています。

しごとや活躍できる場所と機会があり、町の経済が元気に循環し、お互いさまのコミュニティが機能している。子どもたちから高齢者まで、町民一人ひとり誰でもチャレンジでき、サポートを受けられることを通して、みんなで未来を創っていきます。

【町の約束:最重要業績評価指標(最重要KPI)】

『2030年度の関係人口を、1,600人にする』

これが、北竜町の最重要業績評価指標(最重要KPI)です。「ひまわり暮らし」を必ず未来につなげていくために、これを最も上位の業績評価指標に位置づけ、町で暮らす人、町で生まれ町の外で活躍する人、そして、これまで町を創ってきたすべての人たちと『約束』として掲げています。

ちなみに、北竜町が定義する「関係人口」とは、元々は町外で暮らしていたが、北竜町に関わる何らかの機会(例:「ひまわりまつり」など観光で来訪した、町が提供するアクティビティに参加した、町内の事業所などと仕事をした、農業研修などに参加した、地域交流や事業提案プログラムに参加したなど)があったことがきっかけとなり、町で活躍するようになった人、町外から定期的にまちづくりに関わっている人、まちの取組やプロジェクトに携わっている人、町の強力なファンとして、定期的にふるさと納税などにより、金銭的な応援をしている人の中で、町の人と顔見知りになった人たちと町の人たちが、顔と顔が見える関係を築いている状態と定義しています。

北竜町の人口は約1,600人と、決して多くはなく、まちづくりの主体(プレイヤー)は限られています。しかし、北竜町の人口と同じだけの「関係人口」の人たちと、総参加で取り組んでいくことで、生産年齢人口

を構成する世代を中心とした、多様な世代の参画によるまちづくりの持続性が、確保されると考えています。

町民と関係人口の人たちが力を合わせて、素早く試行・実行し、変化に対応しながら改善を繰り返し、段階的に進化させていくという手法(アジャイル型)で進めていくことが必要であり、これを『関係人口のエコシステム』と名付けています。

これを循環させていくことの先には、「まちづくりのプレイヤーや担い手が増えている」「町民がやりたいことができるよう、スキルや知識が上がっている、できるしごとが増える、活躍の輪が広がっていく」という、未来の姿を描いています。

【基本目標1】安心して働き、暮らせる生活環境の創生

① 安心して働き、職場づくり、人づくりを起点にした社会の変革により、楽しく働き楽しく暮らせる場所として、「若者・女性にも選ばれるまち」をつくりまします。

考えられる施策や取組としては、コンパクトなまちづくりプランの策定、まち全体の景観・ランドデザイン、義務教育学校の開設、地域全体で子育てする気運と環境の醸成、保育環境の改善・充実、魅力的で特色ある学びの提供、子どもの放課後の居場所の充実などがあります。

② 年齢を問わず誰もが安心して暮らせるよう、地域のコミュニティ、日常生活に不可欠なサービスを維持します。

考えられる施策や取組としては、介護・福祉・医療連携エリアの環境整備、多世代が交流できる場やしくみの整備、老人福祉センターの環境整備、社会福祉協議会関連事業の充実、高齢者が活躍できるしくみづくり、新規就農や農業体験の積極的受入れ、新たな交通システムの構築・運用、スクールバスなど子どもたちの足の確保、テーマ型コミュニティの創出・活動支援などがあります。



関係人口ピラミッドと関係人口エコシステム



新たな地域公共交通「ひまわり」

- ③ 災害からまちを守るため、事前防災、危機管理に取り組めます。

考えられる施策や取組としては、街路灯など防犯・防災環境等の整備、防災備蓄品の充実と新たな機器・機材の整備、救急体制の整備、高齢者等の日常生活の安全安心の確保（食事、清掃、ごみ出し、見守り等）公共インフラの適正な維持管理、などがあります。

【基本目標2】東京一極集中のリスクに対応した人や企業の地方分散への対応

- ① 東京など都市部からの地方への移住や企業移転、関係人口の増加など人の流れを創り、東京圏への過度な一極集中の弊害を是正します。

考えられる施策や取組としては、まちのブランド共有と、タウンライドの醸成、戦略的なプロモーションの展開、都市部等の民間企業人材との新たな協働事業、大学生のキャリア育成と地域課題の解決を両立させるしくみの「キャリアデザインキャンプ」の実施、共創・イノベーションが生まれる取組の実施、「関係人口のプール」づくりと関係人口がまちづくりに参画するしくみの構築、特定地域づくり事業協同組合の活用、クリエイターなど専門人材とのコラボによる稼ぐ力の向上、イノベーションの創出などがあります。



「キャリアデザインキャンプ」

【基本目標3】付加価値創出型の新しいまちの経済の創生

- ① 農林業や観光産業を高付加価値化し、自然や文化・芸術など地域資源を最大限活用した高付加価値型の産業・事業を創出します。

考えられる施策や取組としては、北竜町特有の特産品開発・販売、地域資源の販売や高付加価値化、

新しい体験や観光サービスの開発・提供、公共施設や公共基盤等のグランドデザインの一体化によるまちの空間や居場所の高付加価値化、サンフラワーパーク北竜温泉の環境改善、サービス価値や機能の向上、ひまわりの丘（仮称）やわくわく未来創造館（仮称）における新たな観光サービス・体験等の提供、中高生等が専門人材と学び・つくり・売る「ラボ&ビジネス」のしくみづくりと価値創造モデルの展開などがあります。

- ② 内外から町への投融資を促進します。

考えられる施策や取組としては、新しいデジタル技術等を活かした外部資金の調達、地域活性化起業人制度の活用、ふるさと納税寄附額拡大のためのしくみづくりと内製化による域内経済循環の促進、子どもや若者など町内人材の高度化・専門化による人的資本の強化・拡大、起業や新たなビジネスに対する伴走支援体制づくり、町職員等の兼業・副業の促進・サポートによるまちづくり人材の確保、短時間ワークシェアリング&社会福祉&コミュニティづくりの拠点「社協しごとコンビニ2.0」の展開などがあります。



社協しごとコンビニ2.0

【基本目標4】デジタル・新技術の徹底活用

- ① ブロックチェーン、DX・GXの面的展開など、デジタル・新技術を活用した付加価値創出など、町の経済の活性化、オンライン診療、オンデマンド交通、ドローン配送や「情報格差ゼロ」など、デジタルライフラインや、サイバーセキュリティを含むデジタル基盤を構築し、生活環境の改善につなげます。

考えられる施策や取組としては、まちづくりデジ

タル人材の育成、高齢者スマホ利活用の促進、デジタル機器の導入と生活環境の改善、子どものDX(学校・保育園等)、行政デジタル環境の整備とデジタル関連機器等の充実・強化、まちに関連するサイト・SNSの充実、共助を促すポイントシステムの導入、オンラインを活用した学びの場の提供、デジタル新技術の導入・利活用の支援、デジタルテクノロジー(3Dプリンター、プログラミング等)の拠点整備などがあります。

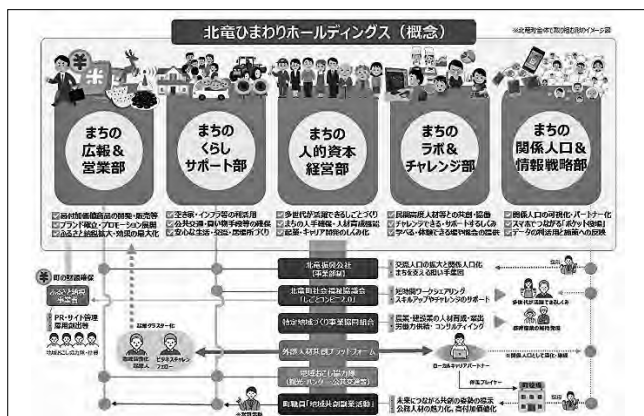
【横断的目標】「産官学金労言」の連携、機運の向上と、新しいまちづくりのしくみ

① 「北竜ひまわりホールディングス」による、総参加のまちづくりを進めていきます。

その際には、行政(役場)だけでなく、町民、民間企業、外部専門人材などと協働で取り組んでいくと同時に、子どもたちなど町民の「タウンプライド」の醸成を図っていきます。

② 地域で知恵を出し合い、地域自ら考え、行動を起こすための合意形成に努めていきます。

考えられる施策や取組としては、役場職員等による、部局横断の「アクションチーム」による、様々な事業の企画・実施、内発的関係人口づくりのシステム化・見える化、地域再生推進法人との連携・協働によるまちづくりエンジンの推進力の最大化などがあります。



北竜ひまわりホールディングス

③ 町と都市部の間で、また町の内外で人材をシェアする流れやしくみをつくる。

考えられる施策や取組としては、都市部などの民間人材の二地域居住やワーケーション等の受入れ、

交流の促進、関係人口が活躍できるしごと・地域活動・ボランティア活動づくりと、マッチング&サポートのしくみの構築、短時間ワークシェアリングシステムの構築、特定地域づくり事業協同組合制度を活用した、人材育成・スキルアップなど学びのしくみの構築と、町内事業者への転職促進、地域おこし協力隊を活用した人材確保・育成のしくみづくり&ブランディング(ローカルキャリアパートナー、ビジネスチャレンジフェロー)などがあります。

④ 観光交流機能だけでなく、「ラボ」機能と、「関係人口のハブ(Hub)」機能を兼ね備えた「わくわく未来創造館(仮称)」を整備する計画を進めています。

具体的には、子どもを含む町民や関係人口のチャレンジを応援するするしくみ、起業を目指す人が民間高度人材等からのアドバイスや、支援が受けられる場、チャレンジキッチンなど、実験的に商売ができる場や機会の提供、デジタルテクノロジーを活用した、ビジネスにつながる学び、海外とのコラボレーション企画の実施、独自体験プログラムの提供などをイメージしています。



わくわく未来創造館(仮称)

4 おわりに

北竜町のブランドの約束は「ひまわり暮らし」です。花が咲いている時は、ひまわりのように太陽の方を常に向いて栄養をたくわえ、花が終わるとたくさんの種を次世代につなげていく。そんなサイクルの中で、それぞれの人が人生を明るく豊かに楽しく過ごせる、北竜町ならではの新しい暮らしです。

1,600人の町民と、1,600人の関係人口が協働し、北竜町を目指す「ひまわり暮らし」を、必ず実現します。